

## 第12回インフラツーリズム有識者懇談会

令和5年11月1日

【アセットマネジメント企画調整官】 ただいまより第12回インフラツーリズム有識者懇談会を開催いたします。

本日の進行を務めます総合政策局公共事業企画調整課の岩井です。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、懇談会の開催に当たりまして、総合政策局公共事業企画調整課長の齋藤より、一言御挨拶申し上げます。

【公共事業企画調整課長】 おはようございます。公共事業企画調整課長の齋藤でございます。本日は、清水座長をはじめ、委員の先生の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。

本日は、モデル地区の中間進捗状況ということで、過去からやってきたモデル地区の中間総括と新しいモデル地区の報告をさせていただいた後、これまでの課題について議論をしていただいて、御指導いただきたいなと思っております。

ちょうど私も亀の瀬に行かせていただきました。また来週には美瑛の現地に行って触れてみたいなと思っております。

亀の瀬も、あんなにいいということを再認識したような感じでございますので、やはり現地に行って、その良さがはっきり分かって、施策にもそれが反映できるかなと思っております。

本日は、忌憚のない御指導をよろしくお願いしたいと思います。

【アセットマネジメント企画調整官】 続きまして、本日御出席いただいております本懇談会の委員の方々を御紹介いたします。

まず、清水哲夫座長でございます。

【清水座長】 よろしくお願ひします。

【アセットマネジメント企画調整官】 阿部貴弘委員でございます。

【阿部委員】 よろしくお願ひします。

【アセットマネジメント企画調整官】 河野まゆ子委員でございます。

【河野委員】 よろしくお願ひします。

【アセットマネジメント企画調整官】 篠原靖委員でございます。

【篠原委員】 よろしくお願ひします。

【アセットマネジメント企画調整官】 なお、行政側の参加者は、お手元の配席図をもつて紹介に代えさせていただきます。

それでは、ここで清水座長から、一言御挨拶いただきたいと思ひます。清水座長、よろしくお願ひいたします。

【清水座長】 改めまして、おはようございます。

昨日、大源太川の現場を見てまいりました。実際に現地を見て、インフラはもちろんすばらしいのですが、それを生かす体制づくりについては、まだ現地もあまりよくお分かりでない、ようでしたので、引き続き、いろいろなアドバイスをしようと心に誓ひ帰ってきたというところであります。

今日、引き続き、卒業を目指していただいている3地区の状況と、新しいモデルの3地区の状況について確認をするということですが、ようやく手引きも公表されて、我々の取組をどうやって横展開していくかということについても真剣に考えなければいけない時期に来ていると思ひます。そういう観点でもいろいろなコメントをいただけると幸ひでございます。

今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【アセットマネジメント企画調整官】 清水座長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。以降の進行は清水座長にお願ひしたいと存じます。清水座長、よろしくお願ひいたします。

【清水座長】 それでは、早速、議事に入りたいと思ひます。

本日、モデル地区の進捗と、これまでの課題と対応方針について議論していただきたいということですので、よろしくお願ひいたします。

まず、前回までの議論の概要を、事務局より御説明をよろしくお願ひします。

【観光・地域づくり事業調整官】 事務局の佐々木でございます。

それでは、資料1、前回までの議論の概要ということで御説明させていただきます。

まず、資料の4ページをお願ひいたします。こちらは、懇談会の開催経緯となっております。今年の7月までに11回の懇談会を開催いたしまして、モデル地区を10か所選

定して、手引きを2回公表してございます。現在は、4か所のモデル地区が自走化されまして、6か所のモデル地区が動いている状況になってございます。

5ページは、前回までの懇談会で有識者の皆様からいただいた主な御意見となつてございます。まず、手引きの使い方・周知につきましては、手引きの周知方法も含めて有効に活用していただきたいという御意見をいただいております。

2つ目として、取組の横展開について、現在動いているモデル地区や、自走化したモデル地区の情報を他地整職員にも共有できる仕組みがあればという御意見をいただいております。近隣の地整関係者同士が連携することで、機運ができて、取組のスピードが上がっていくはずといった御意見をいただいております。

3つ目としまして、モデル地区における検証ポイントが不明瞭ではないかといった御意見をいただいております。新たな3モデル地区で何を検証するか検討する必要があるのではないか。どれか検証ポイントを1個に絞る必要があるのではないかという御意見をいただいております。

この3つの御意見に対する対応方針案につきましては、後ほど、これまでの課題と対応方針案等で御説明させていただきたいと思っております。

6ページをお願いします。こちらは、前回の懇談会でも議論させていただきました課題の拡大の手引きでございます。10月に改訂版という形で公表させていただきました。有識者の皆様におかれましては、様々な御意見、御提案をいただきました。大変ありがとうございました。今後、この手引きを最大限に有効活用していただくよう、PRにも力を入れてまいりたいと考えてございます。

1番については、以上でございます。

**【清水座長】**

続いて2番の各モデル地区の進捗状況ということで、事務局から御説明をお願いいたします。

**【観光・地域づくり事業調整官】** 続きまして、各モデル地区の進捗状況について御説明いたします。

8ページを御覧ください。令和元年度、2年度に選定されたモデル地区で継続しているのが、鹿児島県の鶴田ダム、京都府の天ヶ瀬ダム、高知県の新日下川放水路の3か所になってございます。ここから個別に説明をしていきたいと思っております。

9ページを御覧ください。こちらは天ヶ瀬ダムの進捗状況でございます。「体制・運営スキーム」、「これまでの実施スケジュール」、「これまでの取組」といった項目で取りまとめてございます。「これまでの取組」につきましては、表にあります4つの項目で取りまとめてございます。緑色で着色した部分は、強調したい取組の予定などになってございます。この取組の中でいきますと、4番の販路構築といった対外的な発信につきましては、宇治市観光協会さんが中心となって、旅行会社向けの販売等を行う予定となっております。

10ページを御覧ください。こちらは、今年度の近況ということになってございます。

河川空間のオープン化手続を現在進めてございまして、今月から宇治市を中心とした協議会の新体制づくりを検討中と聞いてございます。

11ページを御覧ください。こちらは、今後の予定となっております。11月に宇治川・天ヶ瀬ダム活用推進協議会の発足が検討中になってございます。来年の2月から3月にかけて、2回目の協議会を開催し、地域が主体となったツアーの実施に向けた検討等を行っていく予定になってございます。

12ページを御覧ください。こちらは、鶴田ダムの進捗状況でございます。「これまでの取組」の中でいきますと、2番の「事業基盤の構築」といったところで、河川空間のオープン化が、先月、指定されてございます。また今後、案内ガイドによる運用を開始する予定にもなってございます。

13ページを御覧ください。こちらは、今年度の近況ということで、左側に10月11日に鶴田ダムの河川空間のオープン化が指定されましたということで、記者発表されてございます。あと、11月26日に、記念イベントをということで、「秋の大鶴湖まつり」を予定してございます。

14ページを御覧ください。こちらは、今後の予定ですが、11月26日にオープン化記念イベントの開催を予定してございまして、来年の2月頃に旅行会社向けのファミツアーの開催を予定してございます。

15ページを御覧ください。こちらは、新日下川放水路の進捗状況でございます。

2番の「事業基盤の構築」といったところで、教育旅行に向けたコンテンツの磨き上げを行っているところでございます。

16ページを御覧ください。こちらは、今、教育旅行のパンフを作成してございまして、観

光協会さんが売り込み中といったところでございます。

17ページを御覧ください。今後の予定でございますが、11月9日に現地検討会、作業部会の開催を予定してございまして、提供商品の造成に係る検討、対外的な発信といったところを検討していく予定になってございます。来年の2月には、第2回目の協議会の開催を予定してございます。

18ページを御覧ください。こちらは継続中のモデル地区の今後の実施方針について、現状を整理する事業項目と、基準となるポイントを表してございます。先ほど説明した「これまでの取組」にあった4項目に、地域が主体となったツアーの実施を下のほうに追加してございます。こちらは、今年の3月に開催した第10回懇談会と同じ項目になってございます。

19ページを御覧ください。こちらは、先ほど説明したモデル地区を、項目ごとに現時点で評価したものでございます。赤字のところですが、今年3月の第10回懇談会で評価したものから、この半年間で評価が変化したところになってございます。具体的には、例えば、天ヶ瀬ダムですけれども、1番の「戦略策定」は、教育旅行に向けたターゲットが絞られて、コンテンツ造成の方向性が明確になりましたということで、前回、3月時点では△だったのですが、今回は◎の実施中といった状況になってございます。鶴田ダムにつきましては、2番の「体制構築・事業基盤の構築」では、河川空間のオープン化が完了したということで、土日の受入可能な体制を構築済みとなってございます。こちら、3月の△のところから、今回、◎という評価をさせていただいてございます。新日下川放水路につきましては、3番の「提供商品の造成」で、教育旅行向けコンテンツを販売中、あと、ガイドのマニュアル等を整備済みといったところで、△から◎に評価をしてございます。今後も協議会で議論等は重ねていただきまして、次回の懇談会で自走化の可否についても検討できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**【篠原委員】** 既存モデル地区について、1度、少し意見を出したほうがいいように思います。

**【観光・地域づくり事業調整官】** 承知しました。

**【篠原委員】** 国交省のメンバーも事務局も変わりまして、いろいろな体制をもう一回整えなければならない状況です。

もともとインフラツーリズムの目的は、公共施設を観光資源として活用しようというこ

とと、現場職員が案内できるような体制ではございませんので、究極の目標として、有料化を図り、民間での運営に移行させていこうということで始めました。これは間違いのないと思います。

事業を進めてまいりますと、体力的な地域の問題などがありまして、そこまで進行できないというパターンもありますが、その場合ワンランク下の目標でも良いのですが、何を目標に既存の地区は作業をしており、新しい地区は作業をしていくのか、しっかりゴールを見極めていかないといけないと思います。

鶴田ダムのお話をすると、

1番「戦略策定」ですが、実は4年前に手がけています。コロナでほぼ2年半止まっていたのですが、所長にも非常に頑張っていただき、全部を開放し、1人1,000円の入場料を取りながら、運営を全て任せる自走にまでこぎ着けられました。

これは首都圏外郭放水路のような施設ではないですが、山間部のダムでも、本当に努力してきた中でできたということだと思います。

オープン化の話では、土日の受入れや、ウェブ上のサイトでの発信、ホームページで自動予約ができるところまで完了しております。

最後の5番のところですが、先日、国土交通大学で実習を行いました。参加している皆さんは、自分のエリアの観光スポットを一生懸命集め、ダムを入れて何かツアーを作ろうとしています。これは全然違う話であり、何かを組み上げてツアーを作るというのは、もうプロがいるわけです。要は、我々が一番やらなければならないことは、インフラ施設の価値、観光的な面白さをしっかり出せるようにすることであり、今までと同じような御案内をしていて、ただダムをツアーに入れても売れていかないということだと思います。

現場に入るとツアーを、ツアーをと言うのですが、そこはもう大きく違うということ、再度我々も確認していかなければならない。このように思います。

**【清水座長】** 分かりました。

あと、このタイミングでいかがですか。

**【河野委員】** 私が入っている日下川のところで、19ページだとちょっとシンプルな書き方になっているので、誤解がないように少しだけ補足をさせていただきます。

既に教育旅行向けのコンテンツを作っており、工事中の段階から有料での見学会を不定期に実施したり、単発のイベントを開催されたりしています。今年6月1日に供用が開始

された中で初めての夏を迎え、蒸し暑過ぎて見学受入に適さない期間というのが初めて分かり始めています。そろそろ全体の工事も完了に向かうので、供用開始から1年経てば、見学動線の検証、売れる期間・売れない期間の検証ができます。また、6月から今日までの間に、既にこの放水路自体が9回稼働しています。悪天候が予見され、受入を停止する場合の予約者に対するオペレーション等も今後の検討課題となります。諸々の検証が途上であるとはいえ、供用開始後も、従来の教育旅行コンテンツをアレンジするような形で内容を段階的に拡充しながら、有料での販売は継続されています。

ただ、教育旅行をテーマにすると決定したわけではなく、単発のイベントではなくて恒常的に販売可能な一般向けの高付加価値コンテンツの検討を現在行っているところです。施設周辺の受入対応に係る電源や照明などを含むハード整備の実現可能性によって提供できるサービスや見学動線なども変わるため、並行して検討することになります。

6月に開通して初めて「河川」となったばかりなので、オープン化の手続きがこれからとなります。周辺の公園整備や出発前に案内ができるガイダンス施設となり得る建屋の整備などはオープン化の後になります。現時点では、河川オープン化や近隣の公園・建屋等のハード整備の完了見込みが令和8年頃とのことなので、その時点でどのような運用をするかを見据えながら、バックキャストでソフトコンテンツを中心として何ができるかという検討をしていくというステップを採る必要があるのが他地区と異なる点です。

**【篠原委員】** 私は、20年インフラツーリズムに携わっております。

中部地方整備局の局長の佐藤寿延さん、彼とも長く仕事をしてきましたが、最終的な結論としては、例えば、所長がお替わりになられたり、状況が変わられても、継続的に続けていくためには、そこである程度マネタイズができるような仕組みが作れない限り、続いたことがないです。ですから、そこのベースをしっかりと持ちながら、仕掛けられるかどうかだと思います。

教育旅行については、やはりインフラの価値をしっかりと伝えるという意味で、別の意味があり、先ほど申し上げたようなマネタイズということ的前提にするとすれば、仕掛け方が全然違ってくると思います。

今、こうして我々が支援している事業は、何のためにやるのか。地域の教育旅行も目的ではあると思います。しっかりそのゴールをそれぞれ決めていく必要があると思います。

**【清水座長】** ありがとうございます。

阿部先生は何かこのタイミングでございますか。

【阿部委員】 日下川放水路で整備が予定されている公園や建屋のクオリティー、整備の質というのもすごく大事だと思います。

【河野委員】 まだ先のことなので最終の設計書ではありませんが、単なる公園ではなく、日高村の水害対策を可視化したような公園にするという基本コンセプトで整備を検討しています。なぜ日下川が内水氾濫するのか、なぜ放水路や調整池が必要か。地元では昔から土盛りと石垣で高くした上に家を建てている、など、地域をミニチュアで表すような、河川の特性と地域の暮らしぶりが分かるような公園にし、必要な管理棟や駐車場などの基本的設備を付帯することを想定しています。ミニ日高村の姿を公園で見て、ガイダンス施設で説明を受けてから現場に入る、というような流れをイメージし、機能とコンセプトを一致させるという検討は始めています。

【阿部委員】 こうしたインフラツーリズムの取組が、周辺のフィジカルな空間整備に波及していくというのは、非常に興味深い事例だと思います。

【河野委員】 ある視点において新しいタイプの取組だと思います。予算の関係もあるし、仮に公園に流水モデルを作るまでのことをすると電源などが必要になるので、それができる場所かどうかなどの実現性の検証はこれからですが、最初の夢は大きく、というところで考えているところです。

【阿部委員】 分かりました。ありがとうございます。

【清水座長】 そのほかは、いかがですか。

では、私からも1点。19ページの表がありますよね。これは、大学で言うところの卒業要件みたいなものでしょうか。例えば、何を満たしたら卒業するというようなものになりますか。どういった目的で、このような整理をするかという確認をしたいと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 基本的に全部◎になるのが理想ですけども、なかなか全部がというわけに行きませんので、その中でも一番下にある5番の「地域が主体となったツアーの実施」というところが……。

【篠原委員】 ツアーではないです。何回も申し訳ないけれども、いつも事務局の発言が違っていると、みんな誤解しますので。

【観光・地域づくり事業調整官】 もちろん何を目標にして卒業するかということもございますが、下の「ツアーの実施」というところで、おおむね各モデル地区で皆さんが



オーソライズされた結果で、例えば、民間のツアーができる観光協会さんなどがいたら、それで卒業、自走化。それ以外にも、なかなか民間主体で有料化してツアーができないとなった場合は、検討会で皆さんがちゃんとオーソライズされた中で決定されて、それで決まれば、卒業という形も考えられるのかなと思っています。

【清水座長】 例えば、1から4は分かります。必要条件というものかと思います。これが少なくとも◎でないと卒業できない。ただ、中身については問いていないように思います。

例えば戦略が、先ほど篠原先生の話にあったように、本来やるべきこととは違うような形で進んでいると、一見戦略策定を実施しているように見えるけれども、本当にそれでいいのかということがあるわけです。

ですからここが◎になり、なおかつ妥当である、という確認は必要であると今までの議論を聞いていて思います。5番については、K P Iのもう少し先のイメージのように思います。

【篠原委員】 そうですね。

【清水座長】 この点で物凄く慌てなくても良いと思います。

【篠原委員】 有識者が助言し、付加価値をお客様の価値として、そして防災の広報にもなる楽しいプログラムを作ることで、ほかの観光資源にプラスされて集客力は上がると思います。今まで地方が行っていたような同じ見せ方をして、鳴かず飛ばずの観光地を追加し、旅行会社に持って行って「売ってください」と言っても売れるわけがないです。

やはり有識者の立ち位置をしっかりとしなければならないということと、鶴田もそうですが、コロナ前から天ヶ瀬も日下川も支援している。スタートは一緒ぐらいだと思います。一時は、観光が大分増えてきているということで、一般のお客さんを受入れ始めていたけれども、なかなか体力的についてこなかったということであると思いますが、いかがですか。

【河野委員】 天ヶ瀬は、体制構築の合意形成に時間がかかっていると聞きます。

【篠原委員】 先日、東京でいろいろな地方の方からお話を伺いました。天ヶ瀬の皆さんとも少しお話をしました。なかなかいいお話はされるのですけれども、具体的な確認をしていくと、市も民間のほうもなかなか固まらないです、という話でした。

それであれば、教育旅行から始めることもいいですけれども、そのように割り切っ

まうことも大事だと思います。

多分、日本中には、もっとやりたいという可能性を持った施設があると思いますので、これはどんどん循環させていくべきです。時間をかけて、5年、6年支援を継続していてもそれ程変わりませんから、最後の締めとしては、あるべき姿をきちんとお話しして卒業させていくこと。

【清水座長】 そうですね。

あまり画一的な話ではなく、現地のキャパシティー等も考えて、一旦卒業していただき、そのあとは、もう少し違う支援が必要になるということですね。

【篠原委員】 おっしゃるとおりですね。

【清水座長】 では、次の新規モデル地区の状況とも関わってくると思いますので、一旦、この説明をいただいて、また戻りたいと思います。

では、すみません。お願いします。

【観光・地域づくり事業調整官】 では、続きまして、新モデル地区の進捗状況の御説明をいたします。

20ページを御覧ください。こちらは、7月に新たなモデル地区に選定された3か所でございます。上から北海道の青い池と十勝岳火山砂防情報センター、2つ目、新潟県の大源太川第1号砂防堰堤、3番目、大阪府と奈良県にまたがります、亀の瀬地滑り対策工事となっております。青い池につきましては篠原先生、大源太川につきましては清水先生、亀の瀬につきましては河野先生に御指導をお願いしてございます。

21ページを御覧ください。こちらは、新たなモデル地区の進捗状況を示してございます。上から青い池ですけれども、11月10日にキックオフミーティングとして、現地視察と協議会の開催を予定してございます。大源太川につきましては、昨日、キックオフミーティングを開催したところでございます。亀の瀬につきましては、8月末に開催いたしまして、年内には関係者協議を開催予定と伺ってございます。

22ページを御覧ください。こちらは亀の瀬の進捗状況でございます。亀の瀬につきましては、モデル地区に選定される前から、自治体さん等々と連携しながら、様々な取組を実施していたところでございます。今年度は、新たに資料室もオープンする予定と聞いてございます。今後も、戦略策定や提供商品の造成に向けた取組が行われる予定となっております。

23ページを御覧ください。こちらは、新たなモデル地区における検証事項をまとめたものでございます。前半に御説明しました、前回までの懇談会でいただいた主な御意見がありました、モデル地区における検証ポイントが不明瞭ではないかという課題に対しての対応方針案になってございます。これまでのモデル地区実験により多くの知見が得られたことで、拡大の手引きを改定することができたのですが、一方、モデル地区のインフラ施設は、ダムや長大橋に偏っています。あとは、地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない。各候補インフラ施設の熟度による違いの検証も必要といった課題もございました。また、先月改定した手引きをモデル地区へ適用し、その有効性、不足点も検討する必要がありますと考えてございます。

そこで、課題に対する共通の検証事項を真ん中の表にあるように取りまとめたところでございます。今回の新たなモデル地区では、ダムや長大橋以外の砂防施設が選定されており、集客力のある観光資源周辺に眠ったインフラという観点で、モデル地区に選定させていただいてございます。引き続き、検証結果を踏まえて、必要な知見は手引きへ増補していきたいと考えてございます。

24ページを御覧ください。こちらは、新たなモデル地区における個別の検証事項についてでございます。

上の青い池（美瑛川ブロック堰堤）につきましては、堰堤ができたことによる青い池が観光スポットとなっておりますが、ジオパーク等と連携した観光地との連携モデルとして検証を進めたいと考えてございます。

大源太川につきましては、アーチ式砂防堰堤が土木遺産としても選奨されており、その施設にスポットを当てる検討を進めるとともに、周辺観光資源を組み合わせた連携モデルとして検証を進めたいと考えてございます。

亀の瀬につきましては、全国有数の大規模地滑り対策事業のほかに、周辺に存在する明治時代の鉄道トンネルも組み合わせ、歴史を紹介・学習する既存見学会の発展モデルとして検証を進めたいと考えてございます。

新モデル地区の進捗状況につきましては、以上でございます。

**【清水座長】**      ありがとうございます。

それでは、先ほどの議論も踏まえてお願いいたします。

**【篠原委員】**      今回は公募をかけ、各地整さんから申請が上がってきました。ダム以外

からもなるべく採択しようというお話があり、この3つに絞られたわけです。

北海道開発局は、かなりの機動力と、地域をまとめていくという意気込みがあります。これには本当に感心します。どんな地域もなかなか力がない状態ですが、やはり国交省の力で、地域をここまで造っている、そういう中で、前回の白鳥大橋も成功し、有料化できるようになったわけであります。

今回、青い池が開発局から推薦され、きっと、そうしたバックグラウンドがあるだろうと思い採択したわけですが、私が今まで関わった案件で、一番難易度が高いと感じています。この青い池、とても人気があり、オーバーツーリズムでも核になるような存在です。観光スポットと青い池が隣接していればやり方はありますが、観光スポットからは車で十数分かかるといふ場所にありませぬ。

現地へ訪問し、いろいろお話を伺う予定ですが、先日、Zoomでも現地とお話をいたしました。昨年、ジオパーク協議会というものが地元にできたそうです。そのジオパークという1つのストーリーを、例えば、北の大地が出来上がったところから、屯田兵の話も交え、どのようにドラマとして仕立てていくか。十勝岳が噴火して、丘の大地が広がり、今、花が咲き乱れるようになった、その大本が、実は、火山防災であり、今の地域を守るための砂防を、一般観光とどうつなげようかという難易度があります。

一般観光で写真を撮りに来た人へ、この話をしても響かないだろうと思いつながら、今後、このジオパークをどうやって楽しくガイドしていけるのかがポイントになると思いつます。この砂防施設の魅力を楽しく見せることとともに、ジオパークの見せ方をしっかりと国交省として指導していくことで、現地の方から気づきが出るのではないかと思いつます。

来週訪問予定ですが、難易度が高いということをお皆さんに予告して、頑張つてまいりませぬ。

**【清水座長】** あと、ほかはいかがでしょうか。

24ページの、こういう立てつけでいいかというところが、事務局としては確認したいということですね。昨日、大源太川に行つてきました。記憶の新しいうちに状況をお話したいと思いつます。

この大源太川は、端的に言うつと、単体で勝負するにはキャパがありません。そして今回、砂防を選んでいるということもあり、中心地から遠いところとなります。すごく強いストーリーを持って、周辺の関連インフラないしは、このインフラによって助かっている

もの、それから、ここの地域が、このインフラのおかげで競争力が高くなっているような事象をうまく組み合わせた、合わせ技で考えて行かないと、なかなか難しいと思います。

ですから、数量を稼ぐモデルではなく、高付加価値・少数で高い単価で勝負するモデルの1つとして位置づけるのが良いであろうというのが私の最初の予感であり、訪問してみたところ、そのとおりでありました。

その意味で言うと、スタートはインフラ部局を中心に作業していたと思われませんが、昨日、御参加いただいたような雪国観光圏や、まちづくり機構などの存在が非常に重要だと最初から思っておりまして、その意味でも、昨日、出席いただいてよかったなと思っております。

特に雪国観光圏のほうは、ストーリーを組むのがすごくうまい。もうそれで心中するような形で活動していますので、この話は彼らにとっても刺さります。そういうところをうまく使い、最初から収支モデルといいますか、ある程度数量や対象を想定する中で、この大源太川を位置づけたほうがいいかなと思います。

一方で湯沢町の立場としては、大源太川周辺の様々な資源を活用したいという思いはありますので、うまくストーリーの中に組み込めれば良いのですが、展開によっては、あまりうまく巻き込めないという可能性もゼロではなく、そうなるとうまな湯沢町の方がなかなか納得しないかもしれないなど、昨日、感じて帰って参りました。

ここに書いてある「周辺観光資源を組み合わせた連携モデル」というのは、正しい姿ではありますが、先ほど篠原先生がおっしゃったように、何かインフラをつなげれば良いという話ではなく、このインフラの強烈的な個性や意味づけに合うようなインフラを合わせなければいけないというところの戦略を、今後、至急考える必要があるというのがこの地域ですね。

**【篠原委員】**      ここも難易度高いですね。

**【清水座長】**      難易度高いですね。

ただ、私自身も雪国観光圏のような存在があるのを知っておりましたので、そこに持ち込んだほうが早いというのが私の感覚であります。その意味では、そこが機能できれば成功するだろうなと思いますけれども、やはり今の体制では、通路の鍵をどうするか等砂防事務所が絡む場合に、平日しか稼働できないとなったときに、なかなか厳しいのではないかとあります。いろいろな法律や制度、仕組みがありますので、そこは少し首

都圏外郭放水路のような経験なども踏まえ、可能な範囲で、どこまで民間でインフラの施設管理のキーとなるようなものを持てるかというところは課題になるかなと思いました。

【河野委員】 亀の瀬も似た状況です。当地の特徴は、地滑り対策工事自体は地面の中にあるので、それ自体の全貌を見ることができない点。水抜きトンネル等の一部は見られますが、山に刺さっている大量の深礎工とはどういうものか、地すべり対策の仕組みがどうなっているのかなどについては、ガイダンス施設の展示やガイドを通じて説明するほかはないものです。

また、関連するインフラや地域資源を組み合わせたインフラツーリズムのストーリーを構築するにあたっては、地すべり対策の説明のみならず、そもそもの大和川の河川の構造についても理解頂く必要があります。古代より、大和川沿いに聖徳太子が道を拓いたことの歴史的なつながりなどを含めて説明しなければいけないところになるので、日本遺産との連携は欠かせません。目下、ガイダンス施設となる新資料室を整備中で、それに伴って駐車場は整備されますが、至近に宿泊施設はありません。本件においては、有料化が必須であるとは考えていますが、日本遺産協議会で育成を続けていたガイドをインフラツーリズムにも適用させていくためのオペレーション、飲食や物販などの周辺事業者に経済的な恩恵のある仕組みを作るための体制の検討が急務です。元々、観光地ではなかった地域において、この複雑なストーリーをどう効率的に理解してもらうか、民間のプレイヤーとの体制をどのように組んでいくかが、12月以降のワークショップを皮切りに議論していくポイントと考えています。

【清水座長】 そうですね。

思い出したのですけれども、青い池と大源太川は、おそらく、通年利用ができないです。大源太川は、見たところ7か月ぐらいかなと思います。

【篠原委員】 そうでしょうね。

【清水座長】 きっと大変で除雪もしないと思われれます。

【河野委員】 砂防あるあるで、夏は草刈から始まるため受入準備のコストも大きくなります。

【清水座長】 少しそういう付議性もありますね。

【篠原委員】 今までの反省から、難易度も高いですけれども、今回、これらの地区を指定して、どこをゴールにするかということだと思います。

前回の反省から、長い間継続支援していても、なかなか結論が出ないまま、何年も続いてしまうと思います。今年の実践としては、採択をして発表できたのが、夏の前まで長引かせてしまったということです。

去年も今頃の時期に同じ発言をしており、そうならないように、年内には地整にお話をさせていただいて、年明けすぐに決定していかないと1年無駄になるという話だったわけです。

これは来年度に向けてのマニュアルの作り方であり、例えば、協議会ができて、動き出すというか、ストーリーはちゃんと作ってさしあげながら、場合によっては2年目に残るという場合もあり、あるいは補助的に継続して面倒を見てあげられるような仕組みにする。そういう形で一定程度、各委員が入り、状況を見ながら、どこを目標とするかということ、それぞれ地元と委員のほうでも協議して決めたほうがいいかもしれないということです。

**【清水座長】**　そうですね。昨日、そのような話になり、そうしましよと帰ってきた記憶があります。

**【篠原委員】**　中だるみするのも良くないので、しっかりと、次の候補を探していくことが大事だと思いますね。

**【清水座長】**　最初の段階がやはり重要だと、長年の経験で思っております。最初にしっかりと仕切ってしまうと、あとはうまく行くか、行かないかというのは現地の努力次第ではありますが、スタートが曖昧なままで、探りながら進んでいくと、ようやく覚悟を決めた頃にこの実証プロジェクトが終わるという時期になる。覚悟を決めたら卒業のような状況が、今までのパターンではないかなと思いますので、先に仕切りをすれば、関わる我々としても、何が重要か再認識できて、現地の状況を見て適切なアドバイスができる。これはあまり高望みしてもと思う場合には、目標設定を変更したり、もう少し頑張ればという感じであれば、少し時間はかかるかもしれないけれども、関わるということ、我々自身が判断することもできるのではないだろうかと思う。

**【篠原委員】**　いつも私が現地に入って実行するのは、ほかにはない、ここでしかない魅力を見つけるということ。同じ砂防であっても、ここでしかないものは何かというところから入り、提案があれば、それはしっかり他と差別化ができていますかという話になります。

では、どうすれば他との差別化が図れるのかという事ですが、そのためにいろいろなアイデアや、外部の人間の力を入れながら、組み立てることだと思います。

今回は3つですから、それぞれしっかりドラマのストーリーを磨き提示してあげる事。これは、明確に1つ、今回指定した意義にはなると思います。

その後、どのように支援していくかについては、大体2、3回現地へ行って話をしてみると、何ができて、何ができないなどというのは、勘どころで見えてくるとは思いますが、そのあたりをしっかりと指摘しながら、実行可能であれば2年目も継続していく。そうでない場合には、教育旅行なりでしっかりと見せるようにするなど、少しマニア的になっても良いという事で実行していく。ほかと違う光るものをちゃんと磨きストーリーを作ることがゴールのように思います。

【清水座長】 そうですね。

【篠原委員】 1つのパターンで申し上げて申し訳ないですが、例としてはそのようなことかと思えます。

【清水座長】 阿部先生、関わっておりませんので、想像でも構わないのですが、いかがですか。

【阿部委員】 現場の状況が全く分からない中で、一歩引いて見ている立場からコメントします。私は、景観や土木史、土木遺産を専門にしています。観光などの分野の取組では、これらがコンテンツというか、売りになっているにもかかわらず、実務の現場では、そうしたところに全然予算がつかない状況にあります。土木遺産は、予算を付けて手を入れるのは非常に大変ですし、景観についても、最近では、実務者の方に聞くと全然仕事がないですよという状況です。インフラツーリズムを行政施策として考えたときに、そうしたコンテンツになり得るものに対して、波及効果を及ぼすことができないかと思っています。今、河川のオープン化など、どうやって既存の制度をインフラツーリズムで使うかについては議論されていますけれども、逆に、インフラツーリズムを使って、景観や土木遺産はもとより、ほかの行政施策に対しても、どう波及効果を及ぼしていくことができるかというところが、連携や発展の一部分として見ていけると、行政施策としてのインフラツーリズムの位置づけというのも、明確になり得るのではないかなと思っていました。

そういう見方にも、非常に興味を持っています。

【清水座長】 昨日、大源太川で、今のような関連の議論を見学中にさせていただきま



した。大源太川は、歴史遺産を守りながら、それをリノベする事業です。リノベのため基本的には、機能向上のような便益はなくて、便益はほぼゼロです。

それに対して、B/Cのコストというのは、造り変えるにも全然高いということの為、真っ当に事業評価をすると、多分B/Cで全然勝てなく、そういった意味で言うと、ここは英断でしていただいたと思います。多分、金額を出したら大変なのではないかなと思います。事業評価では出てこないようなインフラツリーズの話や、表面上はあまりB/Cは出ないけれども、もう少し違う観点から、後の経済効果として発現するみたいな説明ができる余地あるかなと思います。

昨日、そのような話を聞き、今、阿部先生の話聞いて思いました。

**【阿部委員】** ダムにしても、砂防にしても、結局、リフレッシュしたりする際には、ダムの堤体を埋めてしまうとか、下流にもう少し大きな砂防を造って、上流部は埋めてしまうとか、既存のものを使いながらと言いますが、結局、造り変えるよりも大分コストが高くなってしまいます。

そうすると、土木遺産というのは、なかなか積極的に残そうという方向にはならない中で、一方で、こうしたコンテンツとして使えるとなると、景観を踏まえ、別の見方で、展開していくことができ、インフラツリーズの波及が出てくるのではないかなとは思っています。

**【清水座長】** この大源太川で使うのは、工事のときに排水する通路です。この本体をリノベするときに、水を抜かなければいけないとして行っているところを、実際はそのまま活用できるということで、これは、工事をしているときはインフラツリーズで使うという発想はなかったと思います。

しかし、このような事例では、そういうものも後で使えるということで、いろいろな公共事業などに別の形で影響を与える余地はあると思います。インフラツリーズではないけれども、そのあたりも結構重要ではないか思いました。

正直なところ、実際に現地にて1回を見てみないと何とも言えないというのが、この検証事項となります。現在の仮説をもって、こんな感じではないかというところで検証しますし、大源太川と亀の瀬はすでに1度行っている為、それを踏まえての微修正が必要かと思いますが、青い池はこれから行っていただいて、現地の状況を正確に見ていただいて、方向が変わってくるだろうなと思います。

【篠原委員】 今回のゴールの議論はすごく大事でして、来年に向けてどのように今後の展開を頑張っていくかということの議論と、卒業するゴール、というものがしっかりつながってくると思います。

幸いにして、前岩崎課長、そして、齋藤課長も、課長自ら動いていただけている。やはり課長に動いていただくと、すごく現地も頑張ろうという形になり、今、いい環境だと思います。

今度は青い池にも参りますが、それぞれ、もう既に1回視察していただいております、事務局に、これが大体のゴールイメージではないかということをお出ししてみるのもいいのかなと思います。それで来年に向けて地整にお伝えして、来年4月前に決まるような働きかけをおこなう。我々も良い素材をしっかり磨き、ぜひゴールを目指す施設の流れをつくってしまいたいなと思います。

【清水座長】 そうですね。今の話に関連して、地整に正確に理解していただき、彼らを中心に進めていただけて、いつまでも本省ではなくてということが重要ななと思っています。

この次のこれからの対応方針にも絡んでくるかもしれないので、先に次の3を御説明いただけて、今の話を含めて議論できればと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 では、これまでの課題と対応方針（案）について御説明いたします。

26ページをお願いいたします。インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトにつきまして、成果と課題を取りまとめてございます。成果としては、自走化したモデル地区から多くの知見が蓄積され、それを手引きの改訂版として反映できたこと。今後は、手引きを有効活用して横展開を図っていきたいと考えてございます。課題につきましては、左側のほうにピンク色で5つポツがございます。

1つ目ですけれども、モデル地区以外におけるインフラツーリズムの取り組み方が十分浸透されていないという課題がございます。こちらに関しては、右側の取組の方向性（案）というところで、手引きの説明会、動画配信、モデル地区成果発表会の実施ということを考えてございます。

課題の3つ目ですけれども、先ほどからいろいろ御議論されていますが、ゴールに関する卒業の考え方というところで、ケースに応じたモデル地区での検討が必要ではないかと

いう課題がございます。こちらにつきましては、卒業に向けた目標設定の検討、目標すべきモデル地区のタイプについて、関係者と情報共有が必要ではないかと考えてございます。

4つ目ですけれども、モデル地区実証実験の終了が縁の切れ目にならないような工夫が必要ではないかといったところでは、持続的な実施に向けた体制の検討が必要ではないかと考えてございます。

最後の5つ目ですけれども、インフラツーリズムの認知度を向上する必要があるのではないかと、取組の方向性としては、サブタイトル案の検討も必要ではないかと考えてございます。次のページから各課題に対する対応方針案を記載してございます。

27ページを御覧ください。こちらは手引きの周知でございます。前半に御説明した懇談会での御意見に対する対応方針案となっております。周知方法としましては、手引きの改訂版をより多くの方に周知、理解いただくために、国土交通省でYouTubeチャンネルがございまして、そちらへの説明動画の掲載、あと、モデル地区成果発表会。5月にもやっていますが、そちらを開催しまして、手引きの説明会を一緒にやっていきたいと考えてございます。

28ページを御覧ください。こちらは取組の横展開でございます。

1つ目ですけれども、同じようにモデル地区成果発表会の開催ということで、発表会で各モデル地区の取組を横展開することで、モデル間での情報共有も活発になるとおられます。

2つ目として、卒業したモデル地区の経過資料の取りまとめでございます。手引きだけですと、実際の進め方について、なかなかイメージが難しいと感じております。そこで、自走化したモデル地区で、戦略策定や運営体制の構築、コンテンツ造成などがどのような段階で検討されて、モニターツアーやガイド育成などが、どの段階で実施されたかといった過去の経緯を記した、必要な作業の検討経過資料一式の報告書を取りまとめて、実際の進め方がイメージできるような資料の共有が必要ではないかと思っております。

29ページを御覧ください。こちらは持続的な実施に向けた体制の検討でございます。モデル地区の実証実験後も、持続的な取組を支援する必要があるため、体制検討が必要ではないかと考えてございます。

真ん中に「体制づくりにおいて、求められる役割」と書いてございます。相談があった

場合には、本省と地方整備局等で情報共有を図りながら、問題解決に努めたいと考えてございます。地方整備局を介しながら、これまで培ったノウハウ、知見を活用して、モデル地区をサポートしていきたいと思っております。

あと、自走化した地区のフォローアップを行いながら、プッシュ型の積極的な支援も考えてございまして、支援の範囲といたしましては、まず、当面、自走化した地区と、現在取り組んでいるモデル地区を想定してございます。

30ページを御覧ください。

こちらはサブタイトル案ということで、インフラツーリズムの認知度を高めて、来訪者の増加を図る課題解決として、ネーミングの工夫も必要ではないかと考えてございます。

誰に何を訴えるかといったところでは、インフラツーリズム参加者向けということで、消費者向けを対象にしてございます。非日常的な経験と学習を体感して、インフラを身近に感じていただきたいといったところを考えてございまして、サブタイトルの考え方としましては、キーワードで「魅力的」、「新たな」、「知識」、「ここだけ」などといったキーワードを盛り込んだ形で、例が3つありますが、「非日常的な体験と新たな知識を!」、「未知の感動がここにある」、「今だけ!ここだけ!土木だけ!」と、まだ少し硬いイメージが残ってはいますが、ちょっと例を挙げさせていただいております。

選定方法としましては、以前、魅力倍増プロジェクトのロゴということで、SNSを使って決定させてもらった経緯もございます。

以上でございます。

**【清水座長】** ありがとうございます。

では、今、一通り御説明いただきましたので、質問、御意見等、お願いします。

**【篠原委員】** 順不同になりますけれども、今、このマニュアルを改訂したということ非常に強調されながら、この委員会のメインで動かしていくという話ですが、あのマニュアルは、主に地整の国交省の職員の皆様を中心に見ていただき、やる気を出していただく。まず、それを支援するためのマニュアルだと思っていいいでしょうか。

**【観光・地域づくり事業調整官】** そうですね。

**【篠原委員】** 以前は遠隔だったので、あまり正確に伝わっていないかもしれませんが、このインフラツーリズム有識者懇談会ができた時は、安倍政権で明日の日本を支える観光ビジョンができて、インフラはどんどん使うんだというような国全体の盛り上がりか

あり動き出したと認識しています。その後政権が替わり、今も観光とは言っていますが、直接的なインフラという言葉がなかなか出てこないのが現状です。

これは本省でも総政局がトータルで作成されていると思いますが、原局の道路、河川、も同じような水辺の活性化会議などを毎年行っており、その際に、こうした動きがあるということを私が伝えると皆さんあまり認知されていないような反応でありました。これは、本当に観光の面でも大切だということと、やはり防災の意味で、インフラツーリズムにはこういう意味があるのだということを、まず本省内でも調整していただく必要があるだろうと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい。

【篠原委員】 先日、観光庁の観光地域振興課長とお話しましたが、インフラツーリズムをやらなければいけないという意識はお持ちでした。我々も頑張りますので、ぜひもう一回構築してください。いくらマニュアルを作り、動画を作っても、伝わらないと思います。

それに加えて、一般消費者向けにサブタイトルをつける話ですが、これは最後にパンフレットとして消費者に出す際に検討すべき事項であり、今、議論しているのは、マニュアルを含めて、国交省の中のやる気を持ってもらう話であり、適切ではないと思います。

【清水座長】 その他はいかがですか。

【河野委員】 前回お話をさせていただいた趣旨が、あまり正確に伝わっていなかった点があるかと思いました。

前回の議論の概要として、モデル地区以外にも、国管理の、またはそれ以外の様々なインフラ施設においていろいろな取組があり、これらの各地で起こる新たな動きに関する情報を、各地の担当者の方々が自由にキャッチできる環境があることが望ましいという発言をしました。他のインフラ施設の情報のある地区の担当者が見て、別の地域と連携したり、相互に視察に行ったりなどの自発的な活動とネットワークが生まれ、取組のスピードアップが図られます。

その意見から資料5ページに記載の内容に至っているかと推測しますが、ここに記載されている対応策が手引きの活用と普及に留まっており、目的と手法が一致しません。手引きという「教科書」の読み解き方ということをレクチャーすることは、もちろん意義があるので、それ自体は否定しません。

先ほどの新しいモデル地区選定のステップに係る話の中で、篠原先生からも、新しい種となるものを我々がちゃんと見つけて拾い上げることが必要という意見がありました。地域の実態として、インフラツーリズムは必ずしも地方整備局、河川事務所、砂防事務所が主管ではなく、自治体、あるいは旅行会社、スタートアップの地元の企業、DMOなどが主体的に仕掛けているケースもあります。国交省に属する組織の方々だけに情報が伝わっても、それは非常に限定的であり、「多くの種」を拾い上げることに繋がりません。

関係する様々なプレイヤーや関係者たちがタイムリーに同じ情報を得ることを目的として、類似の取組の情報を横連携したり、自分が気になったタイミングで自由に情報を得ることができる環境やプラットフォームがあるといいと前回申し上げたのは、限られた属性の方々マニュアルを深く理解するという意図でしたが、これに対する取組の方向性に関する記載が本資料にはありませんでした。

新しいモデル地域の選定については、予算、マンパワー、期間等の関係から、選定数は絞られます。29ページに記載の卒業後の体制フォローの話にもつながりますが、支援の範囲として、卒業地域と継続中の地域に限るということでは、すごくクローズで事例数が少ない中でのコミュニケーションになってしまって、その中で新しい情報をどうやって得て、モデル地域に対するアドバイスに反映させていくのかという課題の解決に繋がりません。現時点では、モデル地域という「内」と、それ以外の数多くの事例である「外」が完全に切り離されてしまっている施策方向性になってしまっており、外をどれだけ内とつなげていけるかということの本気で考えなければいけないのかなと思っています。

あと、インフラツーリズム自体の取組を広く浸透させていくにあたって、選抜されたモデル地区というのは、そのほかの全てのインフラを持っている方々や地域の方々からするとある種「エリート」で、自分たちとは関係のない事例と認識している可能性もあります。エリート地域の取組を見て、「自分も真似できる」と思える地域ばかりではないはずですよ。

インフラに限らず、新しい事業や取組が自発的にいろいろなところで散発的に発生するという状況を生み出す際に大事なことは、そういうことをやりたいと思う志が近い人たちが、横に有機的につながっている基盤がちゃんと存在しているということと、もう一つは、困ったときに孤独にならないことです。悩み事にぶつかったときに、あるウェブサイトを書き込んだら誰かが教えてくれるなどの気軽なネットワークの存在は非常に重要で

す。少し困った時に本省にメールで問合せをしなくてはいけないとなれば、心理的ハードルがぐっと上がり、“ちょっとした困りごと”のレベルでは問合せをしてくれなくなる可能性もあります。横のつながりの中で、「ちょっと教えて」ができる環境があることが、それぞれが孤独にならずに、あの人も頑張っているから一緒にやってみようかなと思える地盤の形成に繋がります。この構造を創っていくということが、次の優先すべき一番大事な施策になっていくのではないかなと思っています。

これらの課題と比較すると、サブタイトルに関しては、直近で優先度が高い取組とは言えないでしょう。なお、資料に記載されているサンプルの全てが、10年以上前の観光の現場で流行ったワーディングなので、今の消費者に歩み寄れるとは考えにくい。そもそも、「インフラツーリズム」という言葉自体に相当なパワーとインパクトがあり、しっかりとこれを活かすべきであると考えます。インフラツーリズムを知らない消費者には、聞いたときに「何、それ」と思わせる強さがある言葉なので、わざわざサブタイトルで陳腐化させてレベルを落とす必要は全くないと思います。インフラツーリズムの物珍しさと、力強さと、「何だ、これ」というところを生かせるサブタイトルを作るのであればまだ意味もあるかと思いますが、今の状態では、このページは見なかったことにします。

**【清水座長】** はい。分かりました。

では、阿部先生、いかがでしょうか。

**【阿部委員】** 確かにインフラツーリズムという言葉が出てきて10年ぐらいで、それに類する取組というのは長く行っていると思いますが、この戦略というのが、個別のモデル地区での戦略はありますけれども、インフラツーリズムの戦略というんですかね。国交省としての戦略なのか、もう少し国としてなのか分からないですけれども、その辺りをそろそろ見極めて、多分、ここで議論されるのは手段の話なので、これをどう使うかというインフラツーリズム戦略みたいなものが、この10年は黎明期だと捉えれば、いろいろ模索していたんですが、そろそろ……。

**【河野委員】** 次のフェーズ。

**【阿部委員】** ええ。戦略というものを見据えながらやったほうがいいのではないかと思います。

その中で、エリートモデル地区もあれば、もう少し地場の取組というか、少しインフラツーリズム的なものも、広くインフラツーリズムという考え方で取り込むというものもあ

るでしょうし、その辺りを考えるほうが先かなと思いました。

最後のサブタイトルですけれども、これは、最近、書店や土木系、建設系の雑誌などで、インフラツーリズムというのがサブタイトルになっています。「これぞインフラツーリズム」とか。それで、中を見てみると、いろいろなものが取り上げられていますが、建設サイドにいたので、その他の方々にどれくらい浸透しているかというのは実感として分からないのですが、言葉自体は、少なくともこの分野では大分浸透してきていますので、そんなに言葉を重ねなくても、インフラツーリズムというのをぐいぐい推していったほうがいいのではないかなとは思っています。

**【篠原委員】** やはり、もう一回インフラツーリズム戦略の旗上げをし、しっかりとした方向を出していくことが大事だと思います。

私が一番感じるのは、地整や現場の所長さんたちが実行したいという気持ちがあっても、これがしっかり評価されているのかと思います。当然、民間委託したりということを目標にするなどをマニュアルには記載しますが、やはりリスクもあります。

しかし、力を入れていただいている所長は、リスクを背負いながら頑張って取り組んでいただいておりますが、しっかりと現場や地整がすばらしいと評価をされること、そうしたことで本省とうまくつながることが大事なかなと思いますよね。

**【清水座長】** はい。その他はいかがですか。

**【篠原委員】** 先ほどの国交省チャンネルのY o u T u b e で流すという話はいっていますが、その際にお伝えするシナリオ次第では、読み合わせになってしまうケースがあると思います。

作ることは賛成であるが、どういう構成にするか等は考える必要があります。ぜひいいものを作りたいと思いますね。

**【清水座長】** はい。今、3人の先生方の意見と重複する部分もありますけれども、私も感じた所感を述べます。

これは、今は公共事業サイドの施策ですが、仮にこれを観地課が行うとして、多分、それほど大きな違いはないとしても、フォーカスするところはかなり違うのではないかなと思います。

観光課サイドで扱えば、最終的には誘客という話がK P Iになりますし、しかし、公共事業のほうで扱うとなると、1つの、物凄くスーパーなインフラではなくて、そこを盛り



立てたり、そこを修復したりということに大きなB/Cは出ないようなところであっても、ちょっとしたインフラツーリズムとして生涯活用できる余地があり、それもそんなに物すごくお金が取れるわけではなくてという状況だとしても、いわゆる公共事業の評価の一環として、こういったインフラツーリズムの動きを使える余地はあるのではないかと思います。

それは、もしインフラサイドがインフラツーリズムというものを受け止めて、観光庁ではないような施策目標を立てるとすれば、そういうところに1個考え方があっていいと思います。

その際に、例えば地整にインフラツーリズムというものを説明したときに、やはりそれだけでは、ツーリズムにはならないんですね。そこには観光サイドの人が適切に同じぐらいの密度で関わっていないと、なかなかインフラツーリズムにはならない。

見学会はインフラサイドでもできますけれども、インフラツーリズムとするならば、もう少し観光側の人の発想も入れていかないと、うまく行かないということなです。観光サイドによっても勝負できるようなものと、観光に寄せても、誘客できそうもなく、周りも巻き込めないような場合には、違う価値観で、見学会プラスアルファでもいいので、そのインフラのB/C的な議論になったときに、少し耐え得るようなロジックづくりにも使えそうですし、この先、全体戦略を考えるときには、その2つの軸を両方考えなければいけなく、そこをうまく切り分けていく必要があるかなと、今までの3人の先生方の意見を聞いていて、私自身は感じました。

**【篠原委員】** 観光庁では、現在もインフラツーリズムという言葉は何となく分かっているものの、どのように動いているかということが伝わっていません。観地課長も替わられ観光資源課にも新しいコンテンツを開発へ熱心な室長が来ていますので、その辺も巻き込んでいった方が良くと思います。

我々委員はここで議論するだけでなく、多角的に動いていますから、それを有機的につなげる役割もあると思います。これは相談しながら、御提言申し上げていきたいなと思います。

ですから、課長に提案させていただく前に、岩井さん、佐々木さん、皆さんと、先生方とも意見調整して固められるようにできればと思います。

**【清水座長】** では、時間もありますので、特に急ぎでないようですので、サブタイト

ルは保留とし、今後の対応方針については、局所的に今までの流れでマストとして行うものと、全体で次の戦略のようなものを考えるところは明確に分けて実行したほうが良いと思いますので、そのような整理にさせていただくといいたかなと思います。

事務局、これで大丈夫でしょうか。

【アセットマネジメント企画調整官】 戦略や今後の方向性については、下打合せも含めて相談させていただきます。

【公共事業企画調整課長】 今日はありがとうございます。いろいろお話を伺いまして、非常に耳が痛いというか、私自身が足りなかったなというものも多々ありますけれども、まさにおっしゃるとおりだと思っていまして、今、清水先生が最後にまとめられましたが、今後の戦略的なものは、やはり1回まとめなければいけないだろうなと思います。

私もこちらに来て、インフラツーリズムに関わって、方向性、何を目的にということから、1回きちんと整理しなければいけないなと、ちょっと自分でも悩んでいて、何が最終目標なのかなみたいなのところがあったので、そこを1回しっかりまとめて、皆さんで共通認識を持てるようにしていきたいということが1つ。

それと、途中でお話がありましたけれども、いろいろな方の連携体制ですね。もちろん省内の連携体制もあるし、地域の方の巻き込み方みたいな、全国の連携体制もあるので、少なくとも省内体制をまずきっちり固めた上で、いろいろな地域ごとの連携、全国の連携みたいなものも打ち出せればいいたかなとも思いました。

それと、サブタイトルは長期的な課題ということにさせていただいて、これは裏話を申し上げますと、事務局というよりも、私が外を回っているときに、インフラツーリズムはちょっと硬いねという話を何回か聞きまして、何かもう少し柔らかくならないかかなと思ったのがきっかけなので、事務局が悪いわけではなくて、私が悪いので、ちょっとすみません。そこだけは皆様方に誤解のないようにしておいていただいて、長期的な課題ということにさせていただきたいと思います。

それと、我々の地方整備局も含めて、本省も含めて、燃えるということが出ていましたけれども、火が燃えるのと、今はやりの萌えるですかね。あの辺がやはりかかっているんだろうなと思っていまして、一般の人に萌えてもらうようなものを造るために、我々の事務局なり、地方の人も含めて、当事者のほうが燃えていかなければいけない、バーンしていかなければいけないと思いますので、そういった意気込みで取り組めるようにやってい

きたいと思います。

【清水座長】 ありがとうございます。そのように期待しております。

では、スケジュールですが、説明、よろしくをお願いします。

【観光・地域づくり事業調整官】 32ページ、御覧ください。

事業全体のスケジュールでございますが、上段のほうに事業全体がございます。手引きが10月に更新されてございまして、今後の取組としましては、手引きの普及や、モデル地区の横展開、あとはインバウンドへの対応を踏まえながら、全国展開を図っていききたいと思っております。

あと、中段のR元年、R2年に選定された、継続中のモデル地区3か所につきましては、今年度中までに自走化の目途を立たせて、来年度は社会実験を終了する予定として、必要に応じてアドバイスを行っていききたいと考えてございます。

あと、下の新たに選定されましたモデル地区3か所につきましては、運営体制の構築等を図りながら、地域主体のツアーを早期に実施できるよう、本省、地方整備局が連携しながら全力でサポートをしていききたいと考えてございます。

【アセットマネジメント企画調整官】 ちょっと補足だけさせていただきますと、このスケジュール、先ほども御意見をいただきましたので、そういうものも反映しながら、またブラッシュアップさせていききたいと思っております。

【篠原委員】 大事なことは、今までの長年のものが卒業した後枠を、もう今からちゃんと根回ししながら見つける。去年に引き続きのお願いになりますが、よろしく申し上げます。

【河野委員】 あと、この資料だけを読んだ人に誤解のないように、先ほど篠原先生が言われたように、散見される「ツアー」という言葉の置き換えは、今後必須になると思うので、このタイミングで変えてしまうといいと思います。

【公共事業企画調整課長】 どんな言葉がいいですかね。私も先ほど考えていて、プログラムなどという言葉も出ましたけれども。

【河野委員】 「プログラム」や「体験」などでしょうか。価値提供の体験のうちのひとつが「ツアー」という形を取るケースもあり、イベントという形になる可能性もある、ということです。ツアーという形式に捉われずに価値提供のコンテンツを創っていったら、という認識が伝わるようにすればよいかなと思います。

【篠原委員】 例えは鶴田ダムでは、排水口のところにレンジャーをつけて、子供たちの社会科教育にも使えるし、一般のお客様の観光の際にも、こうしたものをまといながら、楽しく伝える。

さらにそこで販売しているダムカレーを入場料1,000円とセットで販売していたり、見せ方もかなり細かく、面白く、シナリオが書けています。まさに魅力が倍増しており、これはツアーではないわけです。もちろんこの中にツアーがありますが、ツアーというと、観光スポットを全部つなげて売り出そうとしてしまっている、このインフラの魅力がなかったら売れないということです。

ですから、どのようにしてインフラの魅力倍増をさせるか、だと思えます。

【河野委員】 ツアーという形態を取るかどうかは、ソリューションを考える段階の最後の結論です。資料の「運営体制」に関わりますが、事業・プログラムの運営体制という意味であれば、その事業をツアーという形で事業化するのか、また別の形で事業化するのかを考えるにあたり、事業を実施する体制をきっちりつくって、地整単独ではなくやりましようという点が伝わればよいと思えます。事業内容の例をブレイクダウンして、「ツアー」「イベント」「教育」などの分け方で記載されるとよいのでは。

【篠原委員】 念のためですが当然インフラの中を見せるツアーはあります。その部分は重複しないでください。

ここで少し違うのではないかとツアーを作るという事は、いろいろなものを組み合わせせて、ただバスツアーのモニターを実施しても続かない為、ここがどう楽しいかということ伝えるものを作らなくてはいけないという事です。

【清水座長】 ここ単体で面白くできるチョイスもあるし、ツアーとして周りを回るのも、ただ結ぶのではなく、きちんと意味のある結び方をやってほしいということです。

【篠原委員】 あと協議会をつくりまして、例えば、薩摩町であれば、薩摩の焼酎を売っておりますので、その見せ方なども協議会で検討したり、つなげていくというのはそういうことではないかと思えます。

【清水座長】 そういうことです。ですので苦しかったら、「ツアー等」とどこかにありましたけれども、ツアーだけではないという表現もあるかもしれないと思えます。いいアイデアがなかったようですが。

【公共事業企画調整課長】 分かりました。少し考えます。

【清水座長】 では、スケジュール感はよろしいですか。

地域によって、なかなかこのとおりに行かないとか、ここの部分はかなり長くやらなければいけないというような凸凹は出てくるとは思いますけれども、基本的には令和6年度末に一定の成果を迎えるように努力するということをお願いしたいと思います。

今日、いろいろと御意見も出ましたので、こいただいた意見をもとに資料を直していただき、私が最後に確認をして対応させていただくということによろしいでしょうか。

【篠原委員】 はい。

【河野委員】 ありがとうございます。

【清水座長】 では、今日の議事が終わりましたので、事務局にお返しします。

【アセットマネジメント企画調整官】 清水座長、円滑に議事の進行をいただきまして、ありがとうございます。また、委員の皆様には、長時間にわたる熱心な御議論ありがとうございました。本日の議事録につきましては、後日、事務局より各委員に御照会、確認を行った後、ホームページへ掲載させていただく予定です。

それでは、最後、第12回インフラツーリズム有識者懇談会閉会に当たりまして、公共事業企画調整課長の齋藤より、御挨拶申し上げます。

【公共事業企画調整課長】 今日は本当に熱心な御議論、活発な御議論、ありがとうございました。私自身も非常にはっとさせられることが多々ありまして、気を引き締めてやっていきたいと思っております。先ほど少し申し上げましたので、挨拶は本当にこれだけにしたいと思います。本当に今日はありがとうございました。

【アセットマネジメント企画調整官】 以上をもちまして、第12回インフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。

— 了 —